語釈

113○思將…助字 文のリズムを整えることば《助詞の後に置き「…もテ」と訓読するが、実質的な意味はない。また「去」「来」と連用して「将去」(持ち去る)「将来」(持ち来る)の形で上の動詞の方向性を表す。》(『漢辞海』)

○臨 …のぞむ。向かい合うの意。

114○詠取…助字 …してしまう。…している 《動詞の後に付き、動作の実現、結果の獲得、動作・状態の持続などを表す》(『漢辞海』)

115○反覆…幾度も繰り返す。『孟子』「萬章下」に「反復之而不聴、則易位」、『荘子』「大宗師」に「反復終始、不知端倪」の例がある。

『漢語大詞典』では「②変化無常」と説明し、『詩経』「小雅、小明」に「豈不懐帰、畏此反復、朱熹集傳、反復、傾側無常之意也」の用例、桓寛『塩鉄論』「和親」の「反復無信、百約百叛」の用例を引く。

○遺恨…うらみを残す。後に残るうらみ、忘れられない悔しさ、残恨。

116○辛酸…①苦しい、辛いこと、難儀、辛苦。

『文選』潘岳「笙賦」に「夫其悽唳辛酸、嚶嚶關關」の例が見える。

『漢語大詞典』では「③比喩痛苦悲傷」と説明し、阮籍「詠懐之十三」の「感慨懐辛酸、怨毒常苦多」の句、および杜甫「垂老別詩」の「子孫陣亡盡、焉用身獨完、投杖出門去、同行為辛酸」の句を載せる。

○宿縁…前世からの因縁、宿会。宿因に同じ。

『華厳経』「二十五」に「同行宿縁、諸清浄衆」の例が見える。

『漢語大詞典』では「仏教謂前生的因縁」と説明し、宗炳「明佛論」の「況須彌之大、佛國之偉、